

土壌改良における
土壌調査サンプリングマニュアル

事務局

平成18年3月23日

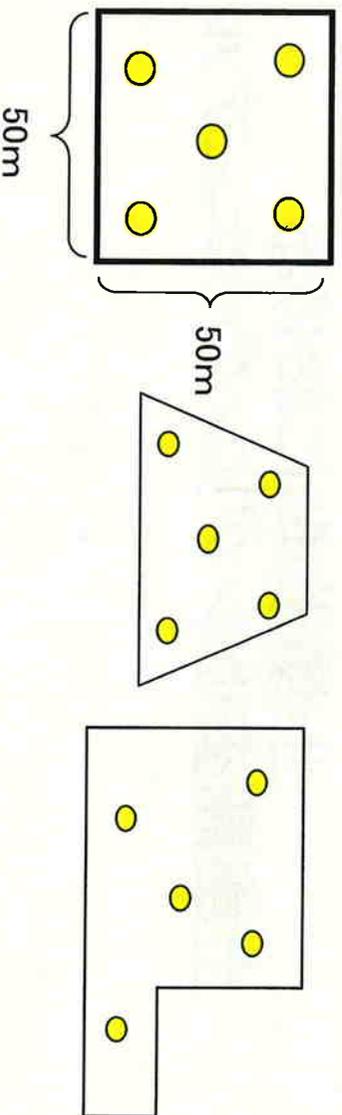
地力増進プロジェクトチーム

1. 目的

作土層の土壌pH、腐植など養分状態を調査するために土壌を採取する。

2. 採取点数

1サンプルの採取点数は5点/25aを標準とし、ほ場の平均的な数値を把握するため、サイコロの5の目の形で採取する。



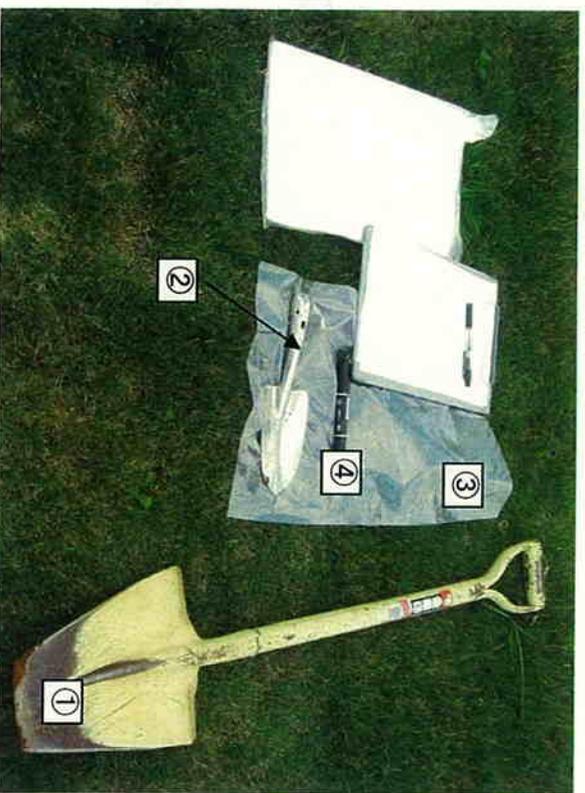
ほ場を形状に合わせて25a程度に区別してサイコロの5の目状に5点採取する。ほ場の形状に合わせて適宜区別する(正方形でなくてもよい)。なお、1区画は10~25aであればよい。また、採取ポイントは畑境界より3m程度内側とする。

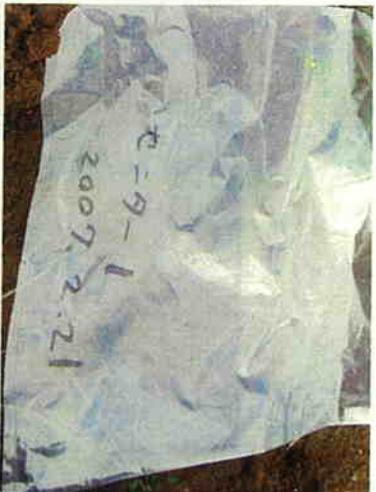
3. 土壌採取方法

3. -1

道具

- ①スコップ
- ②移植ゴテ
- ③ビニール袋
(1区画に一枚)
- ④マジック





ビニールの口の側は後で縛るので下の方にサンプル採取場所、日付を記入しておく。サイズは幅×長さ×厚さ＝350×500×0.04程度がよい(薄いと敗れる恐れがある)。

3. -2

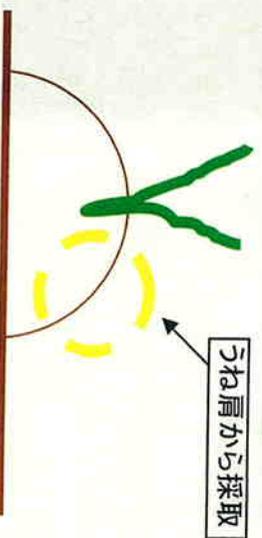
採取手順

①ほ場の表面を薄く(5cm程度)さらう。

サンプルに表面のゴミ(植物残さ等)が混入するのを防ぐための作業である。

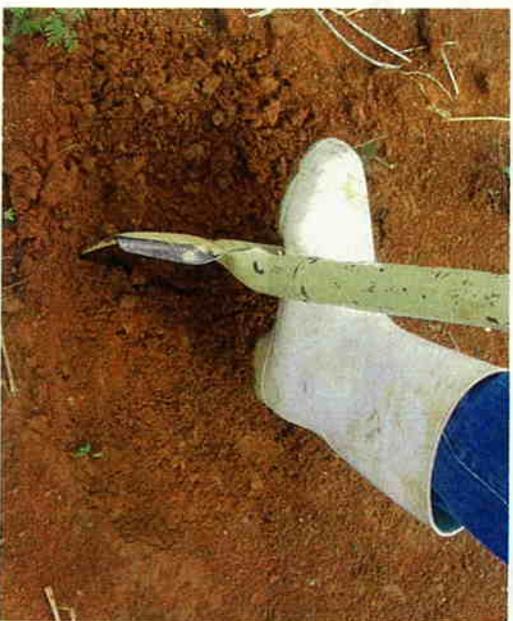


作物が生えているほ場の場合は、うね肩から土を採取します。採取方法は裸地状態のほ場と同じです。



②スコップをほ場面に対して垂直に差込む

深さは作土層、混合層にあたる
20～30cm程度。



③土をすくい、穴を掘る。

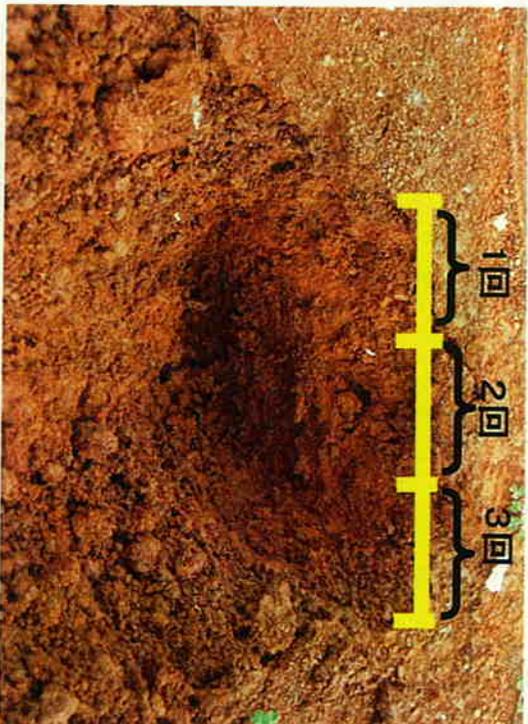
スコップで作った垂直な面は崩さ
ずに穴を掘る。



④移植ゴテで作土を採取する。

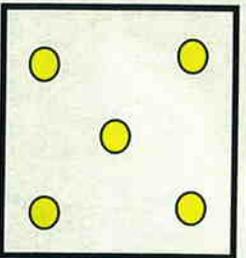
垂直な面を利用して、作
土層をまんべんなく採取
する。このとき、片手で
土を押さえ、他の部分の
土が混ざらないように注
意する。





移植ゴテで3回程度に分けて採取する。
1回の採取で1kg程度の土が採取できる。

⑤他の4点についても同じ方法で採取し、一つのビニール袋に入れる。



1区画(5点)分の土壌サンプルを同じビニールに採取する。



⑥採取した土壌をむらなく混ぜ合わせる。

1区画(5地点)の土壌の平均的な状態を知るため、採取した土壌をまんべんなく混ぜ合わせる。



⑦最終的な重さが2kg程度になるように混ぜ合わせたサンプルを捨て

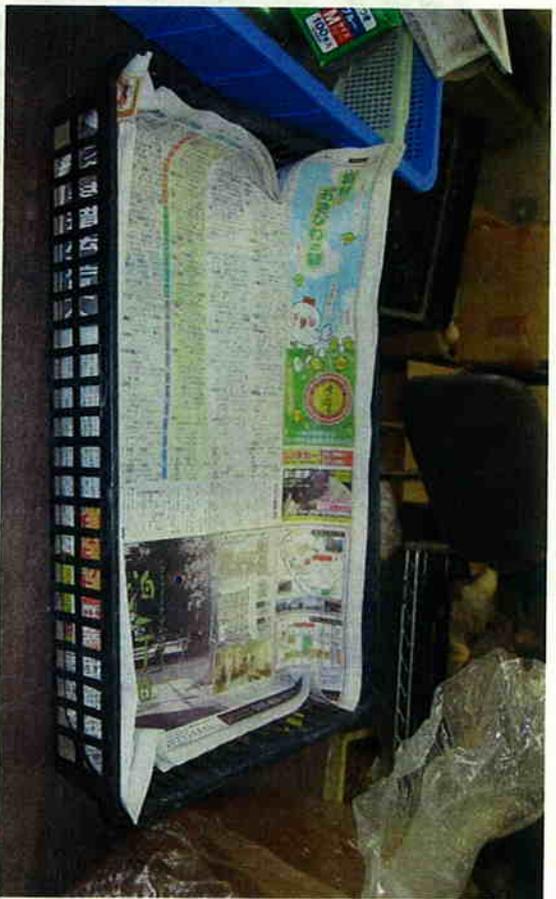


サンプルを半分程度捨て、ビニール袋の口を縛る。調査に必要なサンプルの量は約2kgである。



⑧室内に持ち帰りノットに広げ風乾する。

ノットがない場合は、新聞紙の上に広げるなど、採取した土がこぼれないように広げればよい。





サンプルを風乾後、粉碎して調査を行うため、大きな固まりはこの段階で碎いておく。この際、有機物の測定において正確な値を得るため、ゴミや石、植物の茎や根などは取り除いておく。



手で土塊をほぐしながら植物の根など有機物を取り除く。



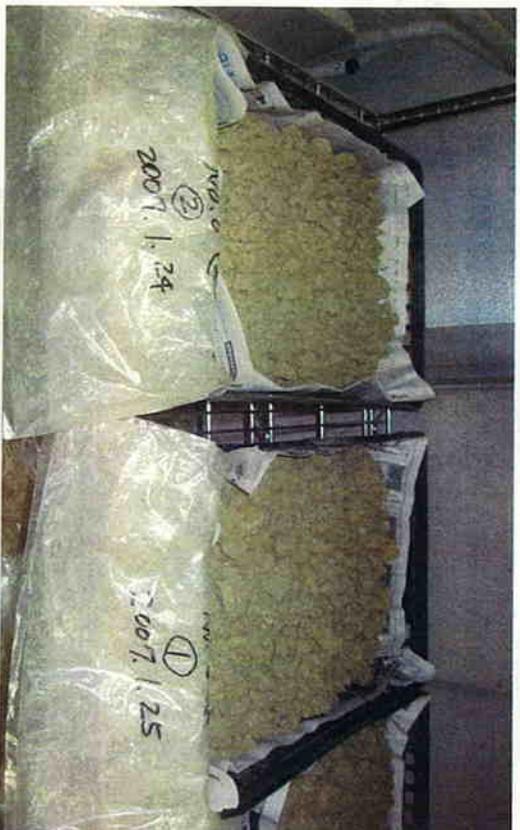
石、植物の根などを取り除く



ゴミを取り除き、ほぐした状態

⑨10日程度風乾する。

室内にて10日程度風乾します。除湿器を使用しても良いが乾燥機は不可。



⑩風乾後、再度ビニール袋に詰める



以上で終了です。

241
有機質物 量